

石垣に学ぶ



会員の皆さんには日頃から当協会の活動にご理解、ご協力いただき感謝しております。

今年度からは今まで冊子にしていた会報誌をデジタル化することとしました。紙の良さは捨てるのが難しいのですが、会員の皆さんがアクセスしやすいようデジタルにシフトすることとしました。会報の他、ホームページやInstagram、Facebookで広報活動をしていますので是非ご覧になって下さい。

突然ですが、私は歴史的建造物を見るのが好きです。寺社仏閣も好きですが、城のような巨大な建造物を機械のない時代に建築したことを思うと深い味わいを覚えます。皆さんは城の石垣をじっくりと見たことはありますか。一つひとつの石が異なった形をしていながらも支え合って一つの形を成し、どの石も欠けてはならない要素となっており、石垣を眺めていると我々職能団体と一緒になんだと錯覚させられます。言うまでもなく石垣は土台であり、城の外郭です。

職能団体は誰のためにあるか？医療ソーシャルワーカーのためでもありませんが、クライアントの利益を守るための活動もしなければならないのです。その活動の土台は我々自身で築き上げねばなりません。

現在取り組んでいるつなぐプロジェクトや全国大会開催が県内の医療ソーシャルワーカーの質の向上と連帯をより強固にし、クライアントや地域社会に還元できることを目指していきます。そのために土台がぐらつかないよう結束を強くし、これからの挑戦に一岩(いちがん)となって取り組んでいかなければなりません。会員の皆さん一人ひとり石垣を構成する大事な要素です。どんな形を成し、何を積み上げていくか共に考え、行動に移していきましょう。

結びに、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

特報

2026年の全国大会は… 岩手県！！！！

第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会
第46回日本医療社会事業学会



日時 : 2026年6月13日(土)・14(日)
会場 : 盛岡市民文化ホール「マリオス」



実行委員長より ~ごあいさつ~

第74回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会ならびに、第46回日本医療社会事業学会を岩手県大会として開催させて頂くことになりました。あらためまして、実行委員長を務めさせていただくことになりました孝仁病院の佐々木章です。

よろしくお願い致します。ちなみに、前回の岩手県大会は1985年(昭和60年)に開催されていますので、約40年振りの岩手での開催という事になります。

さて、この大会を成功させるべく、昨年度から協会理事を中心に、「プログラムチーム」、「マネジメントチーム」、「おもてなしチーム」という3つのチームを立ち上げています。実行委員募集を行ったところ、大変ありがたいことに、29名の実行委員が集まってくれました(令和7年2月現在、協会理事と兼務含む)。昨年12月18日には、第1回全国大会・実行委員会会議(オンライン)も開いております。

普段の業務に加えて、実行委員の様々なタスクは皆さんの負担になっているかもしれませんが、私たち自身が「ウェルビーイング」を実践できるように、あまり悩まずに、楽しみながら前進していきたいと思っています。

小泉大会長を中心にして、実行委員のみならず、協会全体でこの大会を盛り上げていきましょう！



速報

大会
テーマ
決定!!

ソーシャルワークとウェルビーイング ~「ほんとうのさいわい」をめぐる旅~



この度、実行委員メンバー間で全国大会テーマ案を募集し、「プログラムチーム」主導でテーマ案の集計後、チーム内で最終投票を行った結果、上記のテーマに決定いたしました。

大会テーマ主旨

ソーシャルワーカーは、正解のない中でクライアントそれぞれのこれまでの生き方や在り方に寄り添い、ウェルビーイングの実現を支える役割を担っています。それと同時に、ソーシャルワーカー自身も自分のウェルビーイングを大事にしながら生きる個々の存在であります。

副題の「ほんとうのさいわい」とは『銀河鉄道の夜』の終盤で、ジョバンニとカムパネルラが旅の中で悩み、考えたものです。「さいわい」は人によって様々であり、すぐに見つけられるものではないかもしれない。だからこそ、ソーシャルワーカーはその人の人生に寄り添いながら、あちこちを一緒にめぐることが大切であるため、このような表現としました。

人々が多様な課題を抱える現代の中で、今ソーシャルワーカーに何ができるのか、岩手の地で共に考えてみる機会としたいと考えます。